

行政視察等報告

(会派 公明党)

<視察目的>

「株式会社アクトリー」は産業廃棄物を処理する焼却プラントの製造で国内ナンバーワンを誇る高レベルの処理施設である。企画、設計、製造、建設、アフターサービスまで一貫して自社で取り組んでいる。また、実際にそれらを研究開発しているのが「R&D センター」である。そして、アクトリーの技術を結集して事業を展開しているのが「株式会社ショーモン」である。この一連の企業を視察することで安来市にとって次世代の廃棄物処理施設建設の参考になると考えたため。

<視察概要一覧>

視察月日	視察先	視察施設	視察内容
令和7年 1月22日 (水)	石川県白山市	株式会社アクトリー 本社	環境保全と産業廃棄物処理の考え方について
令和7年 1月23日 (木)	栃木県壬生町	R&D センター	次世代焼却炉とエネルギーについて
令和7年 1月24日 (金)	埼玉県久喜市	株式会社ショーモン	産廃処理とエネルギーまた災害廃棄物について

<視察概要報告>

1. 石川県白山市 株式会社アクトリー本社

- 対応者：取締役 営業グループ担当
専務取締役 管理・購買統括
営業グループ 都市環境室 室長

- 説明概要：環境保全と産業廃棄物処理の考え方について
熱処理施設（ごみ処理施設）について

<考 察>

アクトリー本社は、6年前にも視察させていただきました。そのとき言われたのが、『アクトリーは、エネルギー問題の解決は地球人全員に課せられた重大な課題と位置づけ、廃棄物による環境汚染から地球を守ってきた。そして、これからは、廃棄物に新たな方面から光を当て誰よりも早く、誰よりも果敢にこの命題へ立ち向かっていく』とのあまりにもスケールの大きい話に驚き、日本にこのような企業があることに大変感

銘を受けました。その気持ちは今も全く衰えることなく、ますます、研究を重ね、更なる飛躍をされていると実感しました。昨年の能登半島地震においてもさまざまな支援をされたと言いました。

ごみ処理の問題は、世の中の動きの中で時代と共に大きく変わってきました。アクトリーの取り組みは、廃棄物処理業は、再生資源供給業へ変化してきているとの考え方のもと、公衆衛生、公害防止、適正処理そして、循環型社会、低炭素社会の実現へ取り組んでおられます。廃棄物を資源にするという発想は、なかなか資源の少ない日本にとっては重要なことだと思います。それも環境に影響を及ぼさない取り組みであることはこれからの時代必要だと思います。前回も思いましたが、この会社で働く人たちの環境もきちんと整えられ、オープンに話し合いができる環境や、休憩時間の過ごし方など働く側の考えも充分考慮され、理想的な職場づくりができていると思いました。アクトリーの思い描く近未来生活空間エコビレッジについては本当に夢のあるお話で、この会社なら思い描く未来が必ず実現する。そう思いました。

今後、安来市も、ごみ処理は外部委託ではなく市内の焼却施設で行うべきだと思います。アクトリー本社の訪問は、今後の安来市にとってとても参考になると同時に、本当に実現していかなければならない案件だと認識しました。



2、栃木県壬生町 R&D センター

- 対応者：取締役 センター長
営業グループ 東京支店 支店長
管理グループ 課長

- 説明概要：次世代焼却炉とエネルギーについて

<考 察>

アクトリーの研究開発の集大成ともいえるのが「エコビレッジ構想」ですが、アクトリーは社会に先駆けて 2000 年に提唱されています。廃棄物を資源ととらえ、その処理過程で発生する熱エネルギーを効率的に回収し、廃棄物処理から創出したエネルギーを地域に供給することで新たな技術や産業を創出し、雇用の促進を図り社会を活性化しようという循環型社会サーキュラーエコノミーを実現させる構想をこの R&D センターが立地する壬生町でスタートさせ実績を積み上げておられます。

プラントから供給された廃熱を利用してアワビやトラフグの養殖。ハウストマトの生産。これは近郊の道の駅でも販売されています。また、陶芸工房で、地域の皆さんが楽しめるカルチャー教室も設けておられます。

アクトリーの最高の夢は、便利さだけのエネルギーではなく、その土地の文化や芸術を育てていくエネルギーを生み出していくこと。とのこと。



アクトリーは廃棄物が資源になる。これがすべての根本の考え方のもとさまざまな事業を展開してこられました。また、プラントの企画からアフターサービスまでのすべてを一貫して行っている日本で唯一の工場だと伺いました。仕事に誇りと自信をもち日々の仕事に取り組んでおられる社員の皆さまの姿も拝見し、これからも環境に配慮した次世代の焼却炉の開発に大いに取り組んでいただき、国内でより多くの自治体が利用されることを願っています。

3、埼玉県久喜市 株式会社ショーモン

●対応者：取締役 副社長

取締役 ミッションランド破砕処理課 統括工場長
営業部担当者

●説明概要：産廃処理とエネルギーまた災害廃棄物について

<考 察>

最初のあいさつの時に、石川副社長が、「我が社はアクトリーの技術を結集した工場です。」と、にこやかにご挨拶をされたことがとても印象に残っています。

工業団地の中とはいえ、周囲にはさまざまな建物がある中、ごみ処理の工場とは思えないほど臭気もなく、快適でした。そして、女性の従業員が多く、私たちに丁寧に爽やかなあいさつをしてくださいました。そして、私たちに工場内を案内していただいたのも女性でした。女性がいきいきと働ける職場というのはそれだけ、働きやすく、細やかな配慮が多いのだと思います。それだけで到着早々から大変感動しました。

ショーモンは、久喜菖蒲工業団地内に「ミッションランド」を稼働し、「この会社に頼めばそれだけで環境対策になる」との考えのもと、廃棄物処理の専門家として得た知識や経験を最大限に活かし、時代が求めている環境対策の一步先を誰よりも早く行くことを宣言する。そして、未来を担うすべての人が安心して暮らせる豊かな環境づくりに邁進する。との思いで日々の業務に取り組んでおられます。焼却施設、破砕施設など見学させていただきましたが、最終処分場に行き、最後は埋め立てごみになる物も当然ありますが、焼却、破砕した物がここまで何かの役に立っているとの説明に改めて、ごみ処理の技術の深さに感銘を受けました。

3日間、ごみ処理について勉強させていただきましたが、日本の技術は本当に素晴らしいと思いました。このような業界の皆さまがいらっしゃるから私たちは生活ができているのだと認識することができました。安来市も、ごみ焼却施設の建設は課題であります。今後の建設に向けて大いに参考になった今回の視察でした。